

修報（論語素読会会報）

巻頭言

二〇〇二年 壬午年によせて

「天仁一如而知吾」

学校法人昌平黌 理事長
儒学文化研究所 所長
田久孝翁

今年（壬午（みずのえうま）の年）と言うことで馬は火性、壬は水性十干十二支の上では異様な感じもしないではないが、火勢と水勢共に譲らざれば大事を成す年ともなり兼ねないのが昨今の政治経済社会の流れではないだろうか……。

そこで思いを一新して中国の春秋戦国時代、孔子曰く、吾れ十有五にして学に志ざし、（中略）七十にして心の欲する処に従えども矩（のり）を蝕えず、でありましたが、残念ながら孔子は七十三才で他界しておりますので八十にしての格言はありません。

そこで、今八十才を越えて感じたことが天であり仁であり、而（しかして）天は宇宙（自然）の法則であり、仁は全ての人に求められる心理であり、仍って来る未来は天仁共に人間二人からと書いて居るのであります。二人がこの深遠なる心に達したときに平和な社会が生まれて来る事を意味しているのであります。

而して欲する処に従えども矩を蝕えず、八十にして「天仁一如而知吾」時に「経世済民」世を治め民を済いの喩えであり平和経済学の基本であります。

是れを学び是れを知ることによって初めて文化的社会の秩序（ルール）が護られると言うものであります。

斯くして迎えた二十一世紀はミレニアムのキャッチフレーズで華々しく開幕した昨年でありましたが、文明の衝突とも言うべき米国の同時多発テロ車件のような暗いニュースばかりでありました。そのような中で我々日本人にとっては一つだけ明るいニュースがありました。それは「敬宮、愛子内親王様」のご誕生であります。その名の由来は遠く孟子の教え「人を敬って初めて人に敬われる人となる」との意であることを論じているのです。是れを解する意味でもう一つの話題を提供致します。我が関連法人の一つに社会福祉法人太陽の里と二ツ箭荘があります。ここでは「三大敬心」を掲げ、施設の経営理念としております。その第一は「敬愛」愛を敬いであります。その二は「敬老」老を敬い、その三が「敬心」心を敬いであります。この「三大敬心」の第一が敬宮愛子内親王様のお名前に選ばれたと言うことであります。斯くして我が昌平黌関連施設の経営理念としていることを改めてご紹介致します。

次はここで本学の前身、昌平中学（高校）は今年創立一〇〇周年を迎えたことをご紹介

致します。明治三六年（一九〇三）東京神田淡路町に田辺新之助先生によって開設され、爾来一世紀の歳月を数えることになりました。これを記念して来る六月二一、二二日には本学儀礼の孔子祭を契機として、儒学に関する国際会議の開催を予定しております。

東洋の哲学として産声を上げた儒学（論語）二五〇〇余年の歴史的歳月を経て、今や世界的文学としてその名声を博しているのであります。世界は今、文明の衝突とも言うべき大混乱の世紀を迎えております。加えて改革か開放か、このような時にこそ我々人間社会の人々に求められるものは冷静な心理であり、而文学的哲理の起源ではないでしょうか。本学では東南アジアを含め中東、アメリカ等八カ国一五の大学との間で国際交流を要する立場から、国内各大学同行の士の参加を得て「儒学と平和経済学」をテーマとする国際会議を開催し、世界各国各民族の融和に貢献することを目的としていることを付言致します。